

「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業
中国地方整備局活動報告会

コミュニティビジネスが生む 地域の支え合い仕組みづくり事業 について

2011年2月4日

社団法人高知県自治研究センター
畦地和也



主な研究活動（2006～2007年度）

時 期	内 容
2006年 5月 2006年11月 2007年 3月	<p>研究テーマの設定</p> <p>黒潮町、仁淀川町、徳島県上勝町へ調査 「地域を元気にするコミュニティ・ビジネス を考えるワークショップ」</p> <p>ビジネスサポーター：田辺さんとの出会い</p>
2007年 8月 2007年 9月 2007年10月 2007年11月 2007年12月 2008年 2月	<p>赤岡青果市場視察</p> <p>出荷者説明会及び事前アンケート</p> <p>ビジネスサポーター（集荷者）との契約</p> <p>湊川・小川地区で庭先集荷開始（湊川系統）</p> <p>馬荷・御坊畑地区を開始（馬荷系統）</p> <p>第2回アンケート調査</p> <p>第3回アンケート調査</p> <p>国交省所管の「新たな公」へ申請</p>



主な研究活動（2008年度）

時 期	内 容
2008年 4月	「地域の支えあいの仕組みを考えるワークショップ」 （出荷者・直売所関係者・高知大生・行政職員・町議会議員等）
2008年 5月	高知県知事へ研究内容の報告
2008年 7月	国交省「新たな公」モデル事業採択
2008年 8月 ～11月	県外事例調査 （宮城・福島・茨城・愛知・島根） 赤岡青果市場出荷者アンケート
2008年10月	区長アンケート （大方地区、コミュニティ機能に関する調査）
2008年12月	セミナーの開催（高知市）・県内事例調査 仁淀川町視察兼合宿 （2008研究のまとめと2009研究計画）
2009年 2月	第4回出荷者アンケート調査 産直サミット参加 シンポジウムの開催（高知市）



主な研究活動（2009年度）

時 期	内 容
2009年 4月	セミナー「アメリカのファーマーズマーケットに『直売所の公的役割』を見る」（高知市）
2009年 6月	2008年度研究成果報告会（黒潮町）
2009年 7月	県外事例調査（国立市、日野市）
2009年9月 ～2010年2月	高齢者生産活動活動センターへのアンケート調査
2009年10月	第49回高知県精神保健福祉大会 「健康長寿をめざして」にて事例発表（高知市）
2009年11月	四国地方整備局にて事例報告
2010年 1月	新たな公共サービスを考える学習会（黒潮町） 産業振興講演会「モノを売るな！地域文化を売れ！」（黒潮町）
2010年 2月	直売所の多面的機能について考えるシンポジウム 「直売所は地域の元気の源だ！」（高知市）
2010年 3月	直売所座談会（今後の展開に向けた、売る側の意見交換会）
その他	※この間、視察・取材多数（全国農業新聞、四国新聞社、NHK高知放送局、毎日フォーラム、高知新聞社、まんのう町、松山市、南国市） ※高知県運輸政策課から連携した制度構築への打診

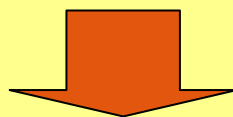
農作物の出荷意欲はある高齢者

(仁淀川町の小規模集落調査中間報告書より)

農作物の出荷意欲はあるがJAの集荷がなくなり
農作業をやめることとなった人がいる。

(アンケートの回答より)

- ・今はほとんど作ってないが、農産物の販路があれば、
(シシトウ・トマト・大根・きび・白菜・梅・サツ
マイモ・キュウイ) 作る意欲はある。
- ・可能なら農作物の集荷をしてもらえたらありがたい。



**高齢者の生きがい対策として、農作物の
販路及び集荷体制の確立の必要性。**

高齢者の生きがい対策

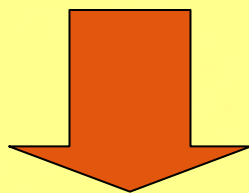
高齢者祝品／老人クラブの育成等／老人無料入浴サービス／さわやか理美容助成／シルバースポーツ大会／老人大学／ふれあいパス交付事業／シルバー人材センター／生きがい教室／友愛訪問／高齢者生きがい友の会／生きがい活動支援通所事業（生きがい型デイサービス）／趣味の作品展示会／高齢者と子どもの世代間交流映画会／老人憩の家／福祉バス／敬老大会／公衆浴場入浴券の交付／高齢者等差額家賃助成制度／高齢者入居あっせん促進事業

コミュニティビジネスさえも 高齢者は保護、支援の対象

- 高齢者向け総合サービス
- 高齢者のための給食サービス
- 在宅サービス
- 福祉タクシー
- 高齢者・障害者のための住宅改造
- 訪問看護ステーション
- 医療関連の消費者支援
- 地域在住の外国人に対するサービス
- 床屋さんの出張サービス
- 福祉・医療関連機器サービス

高齢者とビジネス

- 高齢者支援ビジネス
- 富裕高齢者を対象として「シニアビジネス」



高齢者対応型産業

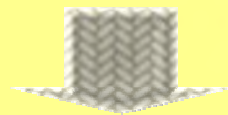
高齢者を食い物に・・・？

徳島県上勝町株式会社彩(いろどり)のホームページより



現状と課題

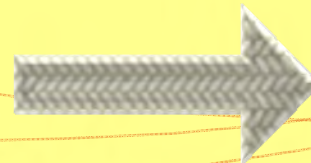
- 現在の福祉政策ではどうしても解決できない壁がある。
- 高齢者が持っている知識や技術を生かすことが、高齢者の生きがい対策になる。
- その結果、福祉医療のコストを削減できる



高齢者自身が行う(主役)

ビジネスモデルを開発する

福祉産業



産業福祉

研究テーマとなる仮説と目標

仮説

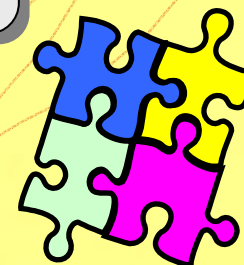
農作物を作る元気はあるが、出荷の術がなく
あきらめている方たちをサポートする

生きがいを見出してもらい、健康で元気のある
「人」と「地域」を維持・継続する

直接効果＝生きがいづくり・健康余命の延長
間接効果＝医療や介護など社会的コストの抑制

社会的コストの削減が可能な仕組みには、
社会的コストの本来的な財源の投資も可能

目標：新たな公共サービスの提案

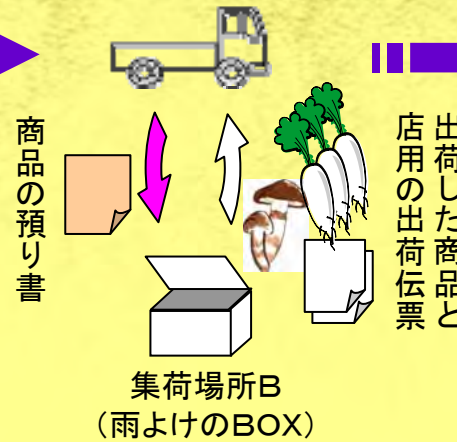
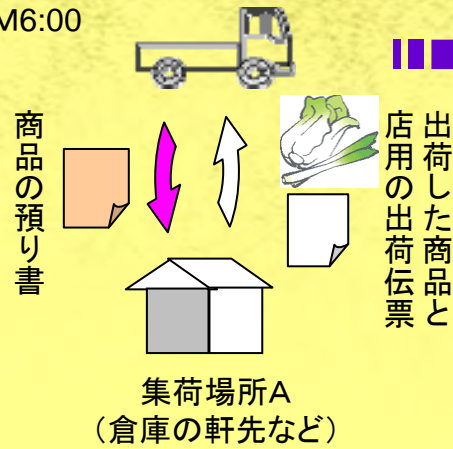


黒潮町での 庭先集荷サービス について

庭先集荷サービスのイメージ

集出荷作業

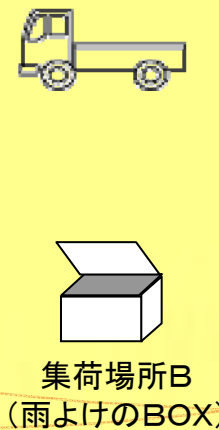
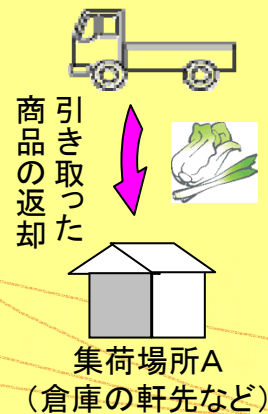
AM6:00



AM7:00



商品返却作業



PM5:00



庭先集荷サービスの実施状況

- 「地域を元気にする
コミュニティ・ビジネスを考
えるワークショップ」
で出会った田辺さん
夫妻の協力
- 山間部である湊川、馬荷地区
を中心にサービスを展開
- 集荷サービスを続ける中で、
少しずつ対象者とエリアが拡大
- 住民ニーズにあったサービス
であることは実証できている
- 物流に不利な「まつ毛型」の
地形だからこそ必要とされる
サービス



黒潮町大方地域



物流に不利な
「まつ毛」型の道路網

庭先集荷の様子



各集荷場所（納屋の軒先や出荷用BOX）を巡回、品物を積み込む（集荷場所で待っている出荷者もいる）



AM7:00前には直売所前に出荷者が集まっている



所定の陳列棚へ（出荷ついでに他の品物をチェック）



荷物を降ろし…

















地域の声

利用者アンケートから



アンケートの内容

<基本的事項>

- 地区名・性別・年齢・家族構成など

<集荷サービスに関する質問>

- 過去の直売所の利用実績・出荷方法
- 集荷サービスへの関心度と利用実績
- サービス利用者の変化（利用者）
- サービス料が「有料」になっても利用するか（利用者）
- どの程度なら負担可能か（利用者）
- 集荷サービスに関する要望事項など（利用者）
- 利用しなかった方の理由（未利用者）
- 26 今後は利用したいか（未利用者）

<健康に関する質問>

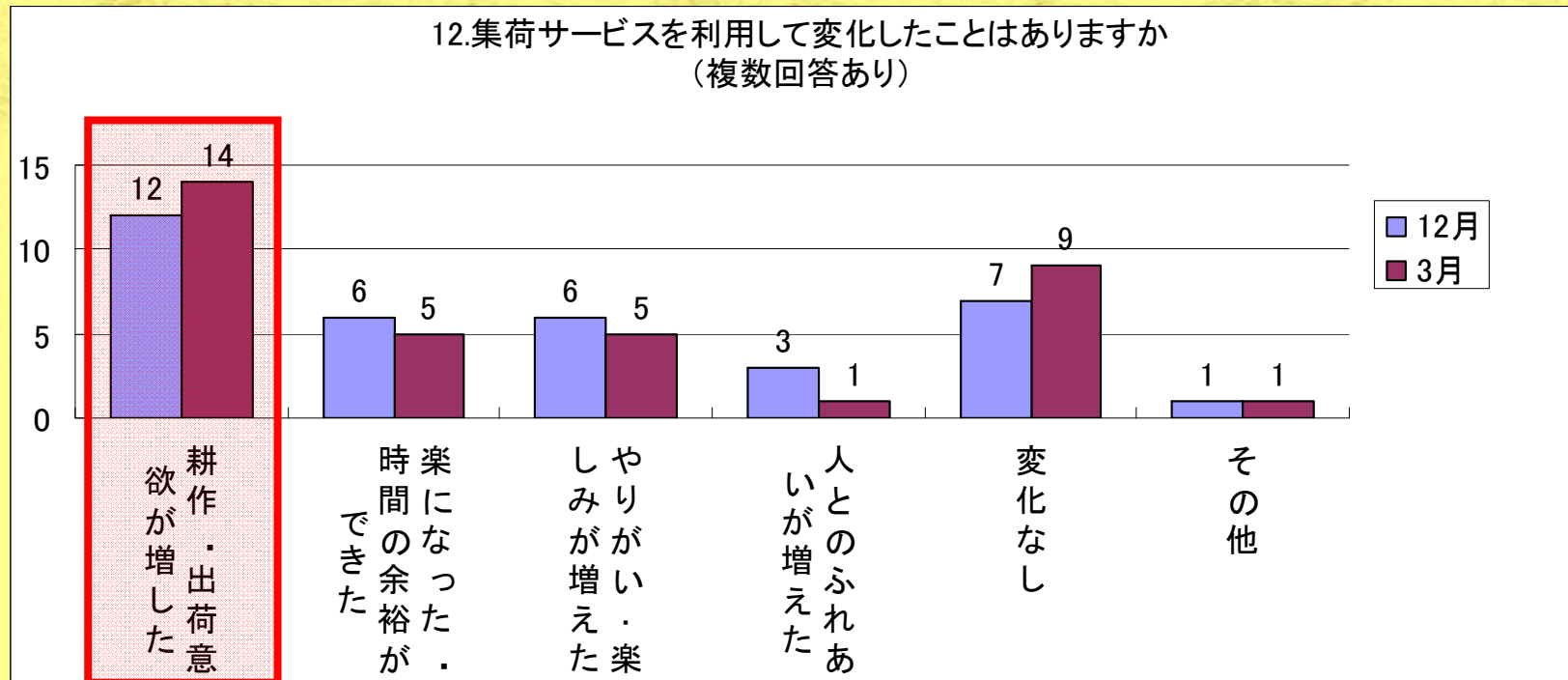
- 通院の頻度・毎月の医療費・病院は何軒か・通院の理由
- 過去の大きな病気やケガ
- 健康を維持するために心掛けていること
- 黒潮町（大方）で行われている町の活動への参加状況

<日常生活について>

- 日常生活の状況
- 生きがいや楽しみ
- 普段の交通手段
- 生活で困っていること

サービスを利用して変化したこと

(2007年12月・2008年3月実施アンケートの比較)



- 最も多かったのは、「耕作・出荷意欲が増した」
- 積極的かつ自発的に、楽しみながら取り組む姿がうかがえる

アンケート調査のなかで・・・ (その他利用者のコメント)

明日が集荷日だから、少しでも準備しようと思うようになった

畑仕事にやる気が出た！

余ったものが売れたら嬉しい！
楽しいと感じるようになった

自分で市場に出向いて、値段を見るようになった
(外出するようになった)

計画的に畑仕事ができ、生きがいになっている

新しい野菜の栽培を始めた

収穫を増やしたいと思う

アンケート調査のなかで・・・

(その他利用者のコメント)

出荷することで、ご近所さんとの接触が楽しみになった

近くの方が出荷場所まで運んでくれるので、助かっている。つながりができた



新しい出会いに喜びを感じる
(ビジネスサポーター・高知大生や研究員など)

出荷することを言ったら、夫が畑仕事を手伝ってくれるようになった

見えてきた直売所という「場」

- 直売所のイメージ
安い・安心・地産地消
高齢者が出品している
地元の新鮮な食材がある
など・・・
- 単にモノを売り買いするだけの「場」ではない
- 直売所は、さまざまな多面性と多様性をもっている



どのような「場」か

- 家庭にいながら収入を得られる
- 高齢になっても働き続けることができる
- 役割を持てる
- 趣味を生かせる
- 出荷者同士の交流を生む
- 生きがい・楽しみをもたらす
- 出荷できる = 農地が保全される



各集落の“活力を生む”場

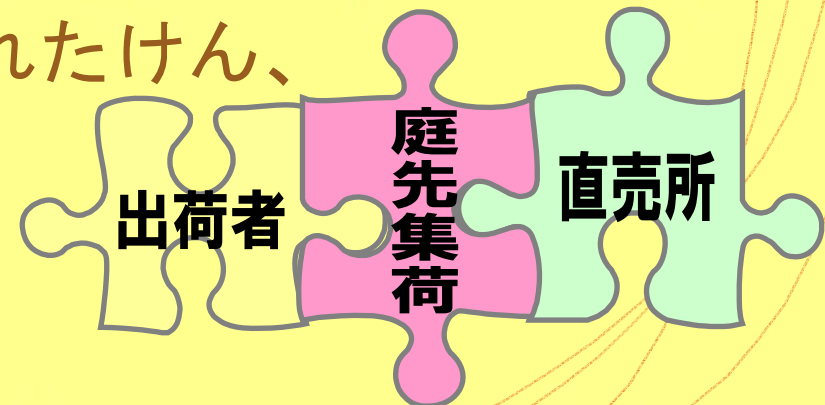
再び、アンケート調査のなかで

- 卵を出荷している方のお宅で…

「弟が脳梗塞にならんかったら、
まだ出荷できたがやけんど。
車に乗れんなってねえ…」



「おかげでまた出荷できたでした。
今年は“ヒナ”も 仕入れたけん、
また出しちよくけんね」
と、笑顔で語る兄弟



- 突如として社会と寸断された出荷者(集落)と直売所 (社会・経済活動)をつないだ事例

「対話と実行」座談会のなかで

尾崎正直知事来町 2009.10.27 馬荷地区

- 出荷者：Aさん

以前は、夫に出荷してもらっていたが、
高齢になり、出荷が大変になった。

週2回の出荷の日を楽しみにしている。



近所の人たちと「いついつは、出荷の日やね。」と話をする
のも楽しい。田辺さんから「今は、こんなものが出ゆう。」
とか「値段はこのぐらい」とか、**教えてもらうのも楽しい。**

- 集荷者：田辺さん

生きがい対策

見守り活動・孤立防止対策

いつも出荷をしている人が、**出荷していないときは、様子を見に行くこともある。**高齢者が、毎週2回の出荷日を確認することや、自分が作った作物の値段を決めることは、脳の活性化につながり、

認知症予防にもなっている気がする。

健康維持・在宅生活支援

庭先集荷の効果

直売所と地域をつなぐ営みがもたらすもの

- 農地保全
（地域にいる方が耕作し続ける）
- 高齢者の小遣いが増える
（所得保障にも繋がる）
- 集落ごとの作物が流通に乗る
（小ロットのでも流通に乗る）
- 直売所の品揃えや売上げに貢献する（少量・多品種・）
- 伝統の農法・品種が守られる

産業振興的效果

庭先集荷の効果

直売所と地域をつなぐ営みがもたらすもの

- 小遣いが増えることの楽しみ（孫の小遣い・趣味の旅行）
- 出荷日の確認や値段を決めることが脳の活性化となる
- 集荷者に会う楽しみや直売所の販売状況や社会時事などの情報交換による精神的な効果

保健福祉的效果

庭先集荷の効果

直売所と地域をつなぐ営みがもたらすもの

- 在宅生活を維持
(集落に人を残せる)
- 環境保全 (ムラ・ノラ・ヤマ)
- 出荷者同士の話題が増え、地域内の接点が増える
(地域コミュニティの形成・再生)
- 集荷者による見守り・地域内交流による相互の見守り
(地域の安心・安全を生む)
- 田舎暮らしの可能性 (IJUの促進)

地域活性化・
集落維持の
効果

産業 = 福祉！

働けること・稼げること

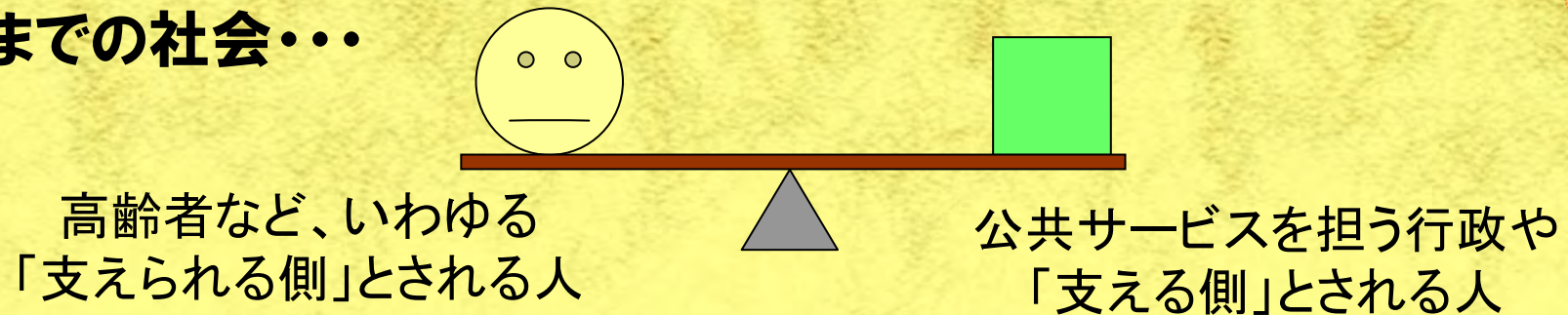
健康ということ
認められること
喜ばれること
役に立つこと
必要とされること

幸福を
生むこと

庭先集荷の試みが新しい公共サービスを示唆

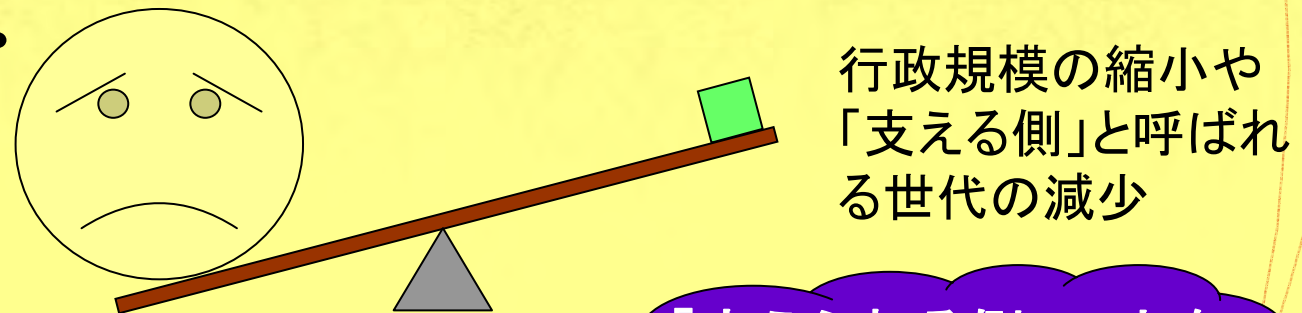
超高齢社会で支えあうカタチは？

これまでの社会・・・

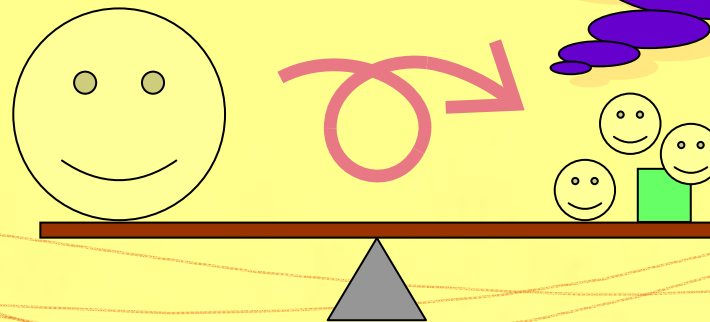


これからの社会・・・

高齢化の進展による「支えられる側」の増加

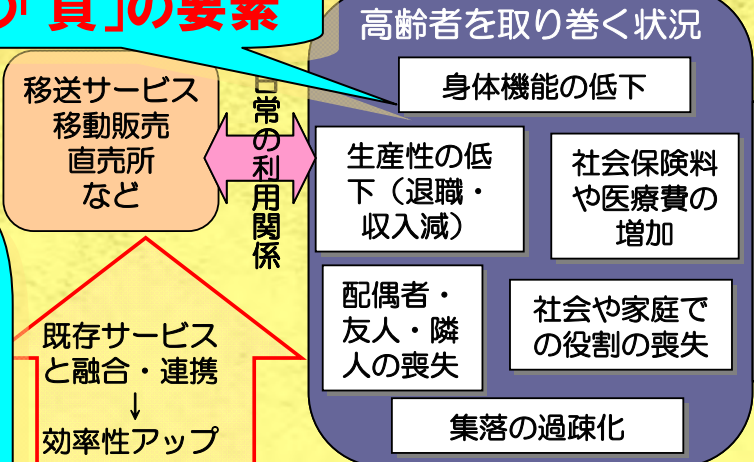


「支えられる側」の力を生かす仕組みが必要



新たなセーフティネット創造プラン

多くの「負」の要素



待ち受け型の既存の仕組み

既存のフロー

- 損失度増幅しネットを利用
- 支える側の減少による負担の増加

無保険者の増加・高齢者の孤立化
孤独死・さらなる過疎化
↓
集落の維持困難

仕組みを持続させるための仕掛け

産業福祉

前倒し型の新たな仕組み

マネジメントのフロー

- 自立できている時期のケアにより損失度の増幅を鈍化・遅延化

【既存のネット】
年金・医療・介護保険・生活保護⇒ハイコスト
ほころびがありカバーしきれない

既存ネットの補修に投入

既存ネット利用者数の低減によるローコスト化+健康余命の延長

在宅生活者の増加・集落の維持
高齢者の孤立防止・個人や地域の生産性維持
↓
集落の維持可能
(地域継続計画の具体化)

社会的コストの抑制と新たな仕組みへの活用

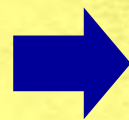
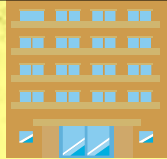
庭先集荷などの新たな公共サービス（集落維持装置）
↓
【新たなネット】

新たな公共サービスへ投入

これまで、これから

これまで：研究として

(社) 高知県
自治研究センター

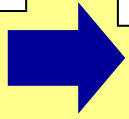
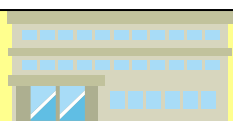


田辺さん

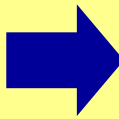


現在：公共サービスとして

役場（農業振興課）



有限会社



田辺さん



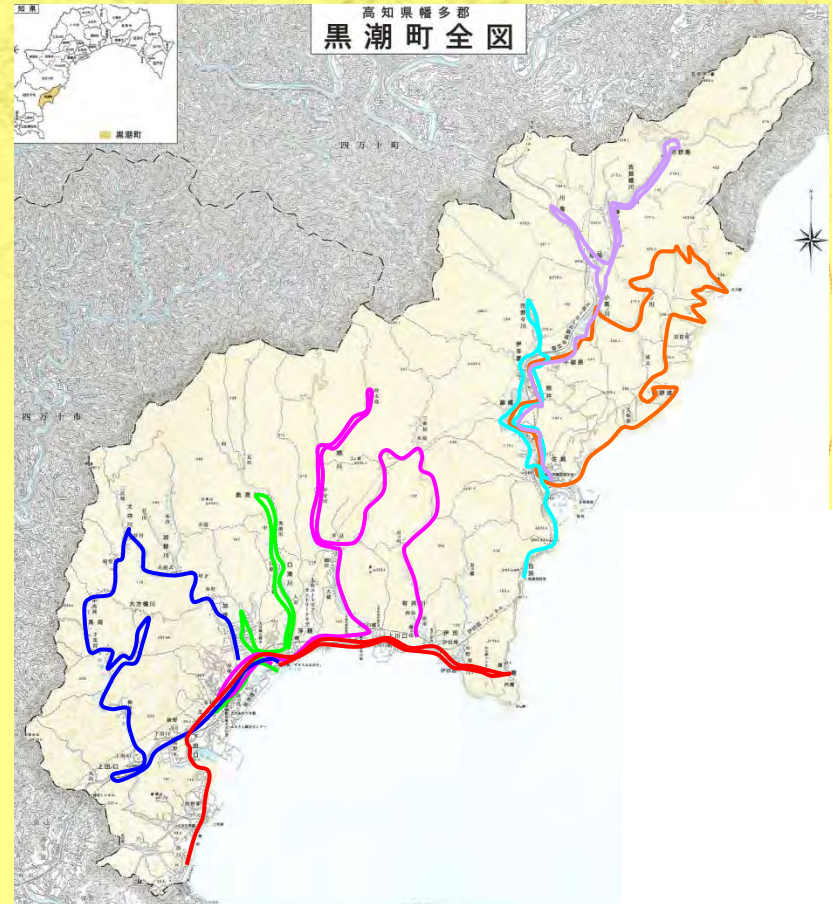
Aさん



Bさん



Cさん

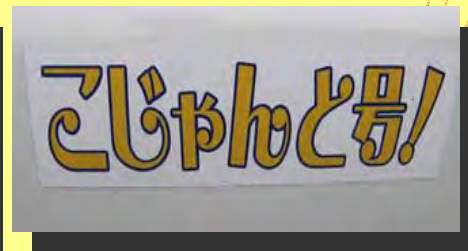
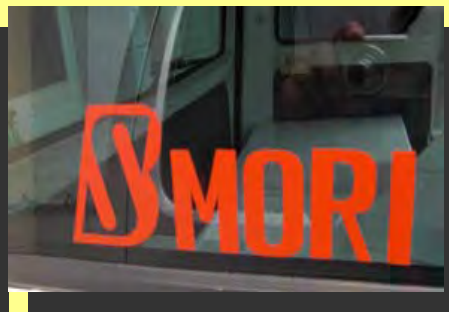


これから：・・・＋α

買物支援・移動支援・安否確認・集落維持

これらがキーワードか？

そして現在（2010年）



ビジネスサポーター4名が、町内全域7ルートを週2回駆け巡る

他地域への普及の例（和歌山県）



JAながみね とれたて広場
サポート車 集荷場
旧志賀野支店
集荷・出発 8:00 返却・到着 20:00
集荷場には、出発の5~10分前に出荷しましょう。
売上情報 音声応答サービス(事前に登録している電話より)
050-380-39831(サンキュウヤサイ)

新たな公概念「産業福祉」への評価



2010年11月 第33回地方自治研究全国集会(名古屋市)

Not Charity But The Chance !

**保護より機会を与える
「新たな公」を創造しよう！！**

ご静聴ありがとうございました。

azechi.kazuya@town.kuroshio.lg.jp